



1.バンドの演奏に合わせて力強い歌声を披露/2.ジャズ、ブルースなど様々なジャンルのバンドが出演/3.オリジナルの「ディジュリデウ」づくり/4.世界に一つだけの「ディジュリデウ」が完成/5.人気バンドの「∞Z (ゼロゼロゼット)」がキャッチーなメロディで会場を盛り上げる

「音楽と歌声が響き渡る」

5月3日から4日にかけて、霊山こどもの村を会場に「霊山ジャズフェスティバル2017」が開催されました。イベントには、仙台市を拠点に活動する「田口忠誠&コンパスオーケストラ」、全国でも活躍する人気バンド「∞Z (ゼロゼロゼット)」など、18のバンドが出演。両日とも晴天に恵まれ、訪れた人たちは霊山の自然の中で音楽を満喫しました。このほか、遊びと学びのミュージアムではワークショップを開催。3日はオリジナルの「ディジュリデウ」（オーストラリア先住民の楽器）を段ボールなどを使って工作し、多くの家族連れでにぎわいました。

市長日誌「二人の先生の死」

最近、敬愛する二人の先生が相次いで亡くなりました。

S先生は、奥様が亡くなられて四十九日もしないうちに突然心筋梗塞で亡くなってしまったのです。息子さんは、急に一人暮らしとなった父親を心配して毎朝実家に電話していたのですが、ある日、ぜんぜん電話に出ないので慌てて知人に確認を頼んだところ風呂場で倒れていたとのことでした。

S先生はもともと90歳と比較的高齢でした。高齢の一人暮らしということから、何かあった場合を考えるとケア付きの高齢者集合住宅などに入ってもらった方が良いのでは、と思っていたところでした。福祉施設に入居するには介護認定が一定レベル以上でなければなりません。S先生の介護認定結果が送られてきたのは亡くなった日だったとのことでした。その上、先生の判定度は低いもので、一人暮らしが心配だからということが入れる施設はまだ無いのです。独居高齢世帯が増えつつある今日、街中にそうした施設の建設を急ぐべきことを改めて痛感しています。

10月頃異常を感じて病院に行ったところ、「末期のガンで余命3カ月」と言われたとのことですが、先生は「絶対誰にも言わず」と家族に言い渡したそうです。T先生は今年の立憲式にもいつもの様に熱心に取り組んでいましたし、4月にも詩吟の会に出席されていたとのこと。深刻な病気が進行しているなんて、誰も気づきませんでした。T先生はまだ70歳代でお元気でした。私としてはまだまだお願いしたい事がありました。がんがその先生を奪ったのです。予防できないがんは早期発見が肝要で、市民の健康をお守りする立場として改めて定期健康診断の推進を痛感するところです。また同時に、T先生の死を通して人はいつか死なねばならぬ運命にあることを思い知らされました。先生は、今年の年賀状にさり気無くお別れの挨拶を書いていたと息子さんにお聞きしましたが、その覚悟も見習わなければと思っています。私を常に心配してくれた温厚でひょうひょうとしたS先生、青少年育成に情熱を燃やしていた正義感の強い熱血漢T先生、長い間本当にありがとうございました。

